

サステナブルファイナンスと外部評価

相原 和之 CMA

目 次

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1. はじめに | 4. 外部評価における課題 |
| 2. 外部評価とは | 5. 終わりに |
| 3. 外部評価の信頼性を高める諸施策 | |

グリーンボンドに代表されるサステナブルファイナンスは、温暖化や社会課題への対応の必要性から成長が期待されている。サステナブルファイナンスにおいて投資家の投資判断をサポートする外部評価は、成長過程の初期段階といえる市場にとって果たすべき役割は大きい。市場における位置付け、信頼性の確保など、外部評価における課題は外部評価者、発行体、投資家、引受証券会社などの市場参加者が協力して解決することが望まれる。

1. はじめに

グリーンボンドやソーシャルボンドのような社会的なインパクトを持つサステナブルファイナンスの市場が拡大している。その背景にあるのは、地球温暖化や社会的格差などによって環境や社会の基盤が脅かされ、今後の持続的な成長に対する危機意識が高まってきているためと考えられる。

サステナブルな環境、社会を築くための社会基盤への投資は公的な資金を利用して行うべきとも考えられるが、既にその必要とされる規模は公的資金で支えられる範囲を大きく超え、民間の資金

導入が求められており、その有力なツールが資本市場を活用したサステナブルファイナンスとされる。

グリーンボンドやソーシャルボンドは典型的なサステナブルファイナンスであるが、環境や社会課題に投資を行うという特徴以外はサステナブルファイナンスと通常の債券との間に違いはない。通常の債券であれば、投資家は年限、利率に加えて信用格付を検討事項として投資判断を行うが、サステナブルファイナンスに投資を行う場合、何を基準にしてサステナブルファイナンスと判断し、投資の決定を行っているのか。



相原 和之 (あいはら かずゆき)

野村證券(株)デット・キャピタル・マーケット部ESG債担当部長。1986年東北大学法学部卒業。同年4月野村證券入社。88年より引受業務に携わり、東京、大阪、名古屋、海外拠点において事業会社、金融機関などの資本市場における資金調達をサポート。2017年10月より現職。